

## 第47回 高遠町桜大学 第2講座開講について

高遠町公民館では、高遠町桜大学第2講座として、映画監督の池谷 薫氏を講師にお迎えし、自身の監督作品で、岩手県陸前高田市在住男性の震災後を描いたヒューマン・ドキュメンタリー映画「先祖になる」の上映会とトークをしていただきます。入場無料・申込不要です。是非、ご参加ください。



### ■講師紹介

映画監督／甲南女子大学教授 池谷 薫(いけや かおる)氏  
1958年、東京生まれ。同志社大学卒業後、12本のNHKスペシャルを含む数多くのテレビ・ドキュメンタリーを演出する。劇場デビュー作となった『延安の娘』(02年)は文化大革命に翻弄された父娘の再会を描き、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー映画賞ほか多数受賞。2作目の『蟻の兵隊』(06年)は「日本軍山西省残留問題」の真相に迫り記録的なロングランヒットとなる。3作目の『先祖になる』は東日本大震災で息子を亡くした木こりの老人が自宅を再建するまでを追い、ベルリン国際映画祭エキュメニカル賞特別賞、文化庁映画賞大賞を受賞。4作目の『ルンタ』(15年)は非暴力の闘いに込められたチベット人の心を描く。2008年から13年まで立教大学映像身体学科の特任教授を務め、卒業制作としてプロデュースした『ちづる』は全国規模の劇場公開を果たす。著書に『蟻の兵隊 日本兵2600人山西省残留の真相』(07年・新潮社)、『人間を撮る ドキュメンタリーがうまれる瞬間(とき)』(08年・平凡社・日本エッセイスト・クラブ賞)ほか

- 1 日時 令和7年6月21日(土) 午後1時30分～
- 2 会場 高遠町総合福祉センターやますそ 3階講堂
- 3 内容 映画「先祖になる」上映会&トーク
- 4 添付資料 ☒ 有 ☐ 無

本件に関するお問い合わせ先

# 先祖になる



## 上映会 & トーク

入場無料  
申込不要



講師

池谷 薫 氏

IKEYA KAORU

映画監督 / 甲南女子大学教授

1958年、東京生まれ。同志社大学卒業後、12本のNHKスペシャルを含む数多くのテレビ・ドキュメンタリーを演出する。劇場デビュー作となった『延安の娘』(02年)は文化大革命に翻弄された父娘の再会を描き、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー映画賞ほか多数受賞。2作目の『蟻の兵隊』(06年)は「日本軍山西省残留問題」の真相に迫り記録的なロングランヒットとなる。3作目の『先祖になる』は東日本大震災で息子を亡くした木こりの老人が自宅を再建するまでを追い、ベルリン国際映画祭エキュメニカル賞特別賞、文化庁映画賞大賞を受賞。4作目の『ルンタ』(15年)は非暴力の闘いに込められたチベット人の心を描く。2008年から13年まで立教大学映像身体学科の特任教授を務め、卒業制作としてプロデュースした『ちづる』は全国規模の劇場公開を果たす。著書に『蟻の兵隊 日本兵2600人山西省残留の真相』(07年・新潮社)、『人間を撮るドキュメンタリーがうまれる瞬間(とき)』(08年・平凡社・日本エッセイスト・クラブ賞)ほか

令和7年

6/21 土

時間 午後1時30分～(開場午後1時～)

会場 高遠町総合福祉センターやますそ  
〒396-0211 長野県伊那市高遠町西高遠1644

※お車でお越しの方は、高遠町総合福祉センターやますそ  
第1・第2駐車場をご利用ください。



「先祖になる」公式サイト



第47回桜大学第2講座では、映画監督・池谷薫氏をお招きし、自身の監督作品で、岩手県陸前高田市在住男性の震災後を描いたヒューマン・ドキュメンタリー映画「先祖になる」の上映会とトークをしていただきます。

主催・問合せ

高遠町公民館 (高遠教育振興係内)

☎94-2557

# 家が流されたらまた建てればいい 大昔から人はそうやってこの土地で生きてきた



男の名は佐藤直志。岩手県陸前高田市で農林業を営み、仲間から“親分”と慕われている。彼の家は1000年に1度の大津波で壊され、消防団員の長男は波にのまれた。生きがいを失った男に何ができるのか？直志はひとつの決断をくだす。元の場所に戻って家を建て直すというのだ。自分はきこりだ。山に入ると木を伐ればいい。友人から田んぼを借り、田植えもしよう。仮設住宅には何があってもいいから——。

土地に根ざし、土地に生きる人々の行く末をおもふ彼の強さと優しさは、少しずつ周囲を動かして、生きることの本質を問いつけていく。忍び寄る病魔、耐えがたい腰の痛み、遅々として進まない市の復興計画……。数々の障壁を乗り越えて、77歳の彼は夢をかなえることができるのか——。

“老人力” 全開のガンコ親父を  
池谷薫監督が見つめた  
ヒューマン・ドキュメンタリー

震災からひと月後に陸前高田を訪れた  
撮影チームは、そこでひとりの老人と  
運命的な出会いを果たす。

復興への夢を語る彼の姿に見惚れた池  
谷は、孤軍奮闘する“ガンコ老人”を  
追うことを決意。

寄り添うように撮影を重ね、困難に屈  
しない“日本人の底力”を描き出して  
いく。

撮影期間1年6ヵ月。東京と岩手往復  
の走行距離は5万キロに達した。  
頑強な肉体と茶目っ気たっぷりのユー  
モア。枯れた中にも残り香のように漂  
う男の色気。

観るものを取りこにする主人公の姿  
は、戦争や災害から立ち直ってきた  
“日本人”とは何なのか、人が生きて  
いくとはどういうことなのか、静かに  
語りかけてくる。